

きしまの風

発行所 杵藤農林事務所杵島農業改良普及センター
佐賀県杵島郡白石町大字東郷2546-2
TEL0952-84-3625 FAX0952-84-6425
E-mail : kishimafukyu@pref.saga.lg.jp
URL : http://www.pref.saga.lg.jp/web/kishimafukyu.html

平成28年2月

第42号

21世紀の主役たち



熱い思いを胸に!!

「平成27年度TK4HアグリマネージメントCLUB冬のつどい」を、2月3日に開催しました。今年も、クラブ員や就農希望の高校・農業大学生らの70名の前で、クラブ員4名が堂々とした発表をおこないました。「農業青年の提言」では、「これからの夢と希望」をテーマに3名が発表されました。白石青年実業会の森卓也さんは、自衛隊員として東日本大震災の震災復興へ行き、「食」の大切さ、「食」で人が笑顔になることを目の当たりにし、就農へのきっかけとなったこと、そして、農業経営の難しさを感じながらも、自分の目標実現のために頑張っていることや、将来的には自分で作った海苔と米をセット販売したいなど、自らの思いを熱く発表され、最優秀賞を受賞されました。また、優秀賞には、祖父の跡継ぎとして早く祖父に認められたいと発表された山口光希さんと会社勤めより農業の方が自分に合っていると感じ、農業で自立するために頑張っている様子を発表された久野辰也さんが選ばれました。

「地域交流プロジェクト」では武友会の江口竜左さんが、農業と福祉の素晴らしい連携、高単価軽量品目を導入し作業の幅を広げ、更に加工まで行う事で年間を通して作業をつくったこと、そして地域の未利用資源を使い加工を行うなどの多角的な活動発表を行い最優秀賞に輝きました。

最優秀賞の森さんと江口さんは2月29日に鹿島で開催される佐賀県農業青年冬のつどいで杵島地区代表として発表されます。





平成27年度 全国優良経営体表彰



農事功績者表彰 緑白綬有功章受賞

白石町 猪ノ口 操氏

昨年11月に開催された農事功績者表彰事業で白石町の猪ノ口操氏が緑白綬有功章を受賞されました。

この賞は、他の模範となる確かな農業経営を展開されるとともに、地域のリーダーとして、産地の育成や青年農業者の育成など、農業・農村の振興に貢献された方々に対し、秋篠宮文仁親王殿下の御名により授与されるものです。

猪ノ口さんは、いち早く極早生水稲+レタス・キャベツ体系とミカン根域制限栽培技術を導入されました。そして、稲、麦、大豆、キャベツ、ミカン作に農産加工を加えた四季を感じるゆとりある複合経営を実践されています。

また、農産加工グループを設立し、会長として地場産品のPR、地域の活性化、所得の向上に貢献されました。県女性農村アドバイザーの会長や農協女性理事などを歴任し、女性の地位向上に貢献され、男女共同参画の推進や食育活動にも尽力されています。



個人経営体部門 農林水産経営局長賞

武雄市北方町 江口 達郎氏 竜左氏

全国優良経営体表彰個人経営体部門に佐賀県代表として出品された、武雄市北方町の江口達郎・竜左さん親子（江口農園）が、平成27年11月10日に宮崎県庁で開催された表彰式で農林水産経営局長賞を受賞されました。

全国優良経営体表彰は、農林水産省及び全国担い手育成総合支援協議会が、意欲と能力のある農業者の一層の経営発展を図るため、農業経営の改善や地域農業の振興・活性化に優れた功績を挙げた農業者を表彰するもので、個人経営体部門には16都府県から16経営体が出品されました。

江口さん親子は、消費者・実需者の求めるものづくり、「攻めの農業」、「環境に優しい農業」を目指すとともに、障害者による6次産業化にも積極的に取り組み、障害者の就労機会を増加させるなどの農業経営ビジョンと戦略に基づき、経営発展にむけた取り組みが評価されての受賞です。

今回の表彰を励みに、今まで築き上げてきた経営方針をもとに経営基盤をさらに確立し、地域とともに江口農園を発展させていきたい」と力強く抱負を述べられていました。



佐賀農業賞 受賞者紹介

佐賀農業賞

最優秀賞 農林水産大臣賞

先進的農業経営者の部

白石町 江口 和広氏
百合子氏

江口さんは、効率的作業を行うための段取りや、最大限に農地を利用するための品目や品種の選定、高性能機械の活用による省力化の工夫などにより、高品質で高収益な土地利用型農業に取り組みられています。加えて、農地中間管理事業を活用し、経営農地は、自宅の周辺に集積され、少ない労力で効率的な作業がなされており、土地利用型農業の経営モデルとして索引されています。

また、地域では、生産組合長やJA白石地区レタス部会長、土地利用型経営研究会の役員などを歴任され、地域農業振興のリーダーとして貢献されています。



佐賀農業賞

優秀賞

若い農業経営者の部

武雄市 田代 了 三氏

田代さんは、平成13年にUターン就農し施設胡瓜栽培に取り組みられています。基本技術の励行と卓越した観察力、高度な栽培技術により10a当たり30t(県平均は18t)を超える高い収量を上げています。平成26年には、施設面積を33・4aに拡大し、2人の年間雇用者を確保して雇用型胡瓜専作経営に転換されています。更に収量・品質を高めるため、雇業者への栽培技術の伝授や環境制御技術の導入に積極的に取り組まれています。

また、佐賀県青年農業士、県内の若手胡瓜農家で構成する「了三会」の主宰を務めるなど、若い農業経営者の牽引者として活躍されています。



佐賀農業賞

優秀賞

組織・集団の部

大町町 農事組合法人畑ケ田
代表理事 岩 淵 眞 彰氏

農事組合法人畑ケ田は、昭和44年に米麦の共乾施設の整備と機械利用組合の設立により農作業の機械化による協業体系を確立され、さらには、米麦大豆栽培体系の効率化により生じた余剰労力を生かし、昭和53年には中核的な農家6名で「畑ケ田施設園芸組合」の設立による施設きゅうり栽培に取り組まれ、県内における集落営農組織のモデルとなっていました。

そして、農作業の受託及び、さらなる農作業の共同化の推進と農用地の利用集積による生産の効率化を図ることと、将来の担い手育成と非農家世帯との共存による新たな農村社会の確立を目的に、平成27年4月に大町町初となる「農事組合法人畑ケ田」が設立され、町内の他組織でも畑ケ田に続け、法人化が波及しています。



地域情報コーナー



図1 ラベル(表紙)の確認

危険性の表示 ※毒劇法や消防法に該当する場合

農林水産省の登録番号

農薬用外剤物 農林水産省登録 第12345号

有効成分と農薬の種類

有効成分とその他成分の含量表示

農薬の有効期限 有効期限を過ぎた農薬は使用しない

図3 間違えやすい適用作物

形が違う	ブロッコリー	茎ブロッコリー
食べる部位が違う	レタス	非結球レタス
サトイモ	サトイモ(茎)	
しそ	しそ(花穂)	
えだまめ	大豆	
収穫時期が違う	ヤングコーン	未成熟トウモロコシ
葉タマネギ	タマネギ	
大きさが違う	トマト	ミニトマト
ダイコン	ハツカダイコン	
用途が違う	食用ギク	キク

※作物名の区分については、独立行政法人農林水産消費安全技術センターのホームページに掲載されています。

図2 ラベル(適用表)の確認

使用可能な作物 ※図3を参考

同一成分を含む剤の使用回数の限度

適用作物名	適用病害虫	希釈倍率	使用液量(10a当り)	使用時期	使用回数	総使用回数
トマト	アブラムシ	1,000	100~300L	前日	2回	2回
キャベツ	アオムシ、ヨカガ	1,500		7日	3回	3回

防除できる病害虫や雑草

希釈倍率と散布量

本剤が使用できる回数

使用可能な収穫前日数
 トマト: 収穫前日(24時間前)
 キャベツ: 収穫7日前

※その他にも重要な情報が盛り沢山

農薬の適正使用で安全な農産物を！

農産物の安心・安全が叫ばれている中、農薬使用者には農薬の適正使用が求められています。県内では、平成24年から平成27年にかけて17件の農薬不適切使用が摘発されています。また、杵島農業改良普及センター管内においても、数件の農薬不適切使用が確認されています。今一度、農薬の正しい使用方法を確認していただき、安心・安全な農産物を出荷できるように心掛けてください。

1 ラベルの確認

使用前にはラベルを熟読し、「ラベルに書いてある「使用基準(適用作物、使用時期、使用方法等)」を必ず守りましょう。(図1, 図2, 図3)

2 農薬の飛散(ドリフト)防止

農薬を散布する際には、周囲の作物へ農薬が飛散(ドリフト)しないように注意しましょう。

- ① 作物間の間隔を十分あけた植付
- ② 作物が隣接している場合は、両者に登録のある農薬を使用する
- ③ 無風または風が弱いときに散布
- ④ 外側から内側に向かって散布



3 防除器具の洗浄

農薬散布後は、防除器具をたっぷりの水で洗浄しましょう。使用前も洗浄をすると洗浄不足や洗浄し忘れを防止できます。ホースの洗浄も忘れないでください。

4 使用履歴の記帳

農薬を使用したら、「散布日時」「農薬名」「作物名」「病害虫、雑草名」「散布量」等を記帳しておきましょう。履歴を残すことで、使用回数超過の防止につながります。もしもの時にも、原因究明や被害の拡大防止に役立ちます。

あなたの圃場は大丈夫？土が泣いています！！

近年、玉ネギ等の露地野菜の機械化が進展したことにより、急激に1戸当たりの作付面積の規模拡大が進んでいます。こうした一方で、定植機の作業性や有機物を投入する時間的な制約などにより堆肥や稲ワラ、麦ワラ等の有機物のすき込みがなされず、地力が低下したり、土壌が細粒化し団粒構造や排水性等の土壌物理性が低下している圃場が多く見られます。このように地力が低下し、一度作物の生産性が悪くなると、速効的な対策がとりにくく、作物の生産性が改善されるまでに多くの時間と労力を要します。安定的に作物生産を行うためには、継続的、計画的に稲ワラや麦ワラの全量すき込み、堆厩肥による土づくりをすることがより重要となります。

普及センターではこのような問題に対応するため「白石町牛屋西分地区」をモデル地区として、個人では取り組みに限界がある玉葱の輪作や土づくりを地域ぐるみで実践できるよう、団地化や輪作の取り組みを推進しています。



土づくりで最も有効な技術は堆肥や稲ワラ、麦ワラ等の継続的投入

